

自ら学び始める人たちの秘訣

2022・9・7 重枝 一郎

学校生活では生徒の大部分は同じ経験をするようになる。ところが同じ経験をして、自ら問いを見出して学び始める人とそうでない人がいる。いったい何が違うのだろうか？そしてこのことは私たち教師にも当然当てはまる。

ある大学の部活動の話聞いた。知っての通り、コロナ禍は部活動にも大きな影響を与えた。そしてこの影響は、マイナス影響という話で捉えられることが多いと思う。ところが、「**学びの出発点**」になった人もいる。

例えば、この部活動のキャプテンは、練習時間や方法に制限がある中でどうしたら効果を生み出す練習になるのかを考えるきっかけになったという。これまで通りだったらおそらく考えなかったとも。そこでその人は、同じ状況に置かれた全国の学生に対して、自ら問いを発信し、練習方法等のリサーチを行い、自分たちの練習に取り入れたという。本校の生徒たちにもこういうマインドを育てたいと思う。もうすぐ行われる女学院祭の生徒会の取り組み方も「**学びの出発点**」になっていたらうれしい。

学校で授業を受けている生徒でも、学校で働いている教師でも、自ら学び始める人たちに共通する特徴はあると思う。以下に、**自ら学び始める人たちに共通する特徴**を3つ挙げる。

1 つ目は、目の前のことに対して、なぜ？どうして？などと問いかけて「思考を繰り返す力」。

2 つ目は、自らの行動や考えを振り返り「内省する力」。

3 つ目は、予定通りいかない状況を乗り越えて「やり遂げた経験」がある。

このことは、生徒の一日の大半を占める教科の授業において、「問い」「振り返り（レビュー）」の重要性を示している（ミッション AL で示しているので確認してほしい）。確かに今の時代を生きる者として、一度学んだ答えだけでは生き抜けない時代だと実感している。

日本のトップ企業のトヨタの「**トヨタのなぜ5回**」がある。この「5回のなぜ」を新入社員の時から徹底して叩き込まれるという。

例えば、「なぜ不良が起きたんだ？」→「設備が故障していたから」

「なぜ故障していたんだ？」→「点検計画通りではなかったから」

「なぜ計画通りに行われなかったんだ」→「・・・だから」・・・

普通「なぜ2回」くらいのところを「なぜ5回」を必ず行くと、本当の原因が見えてくるという。この「なぜ5回」をするということは、上に書いた「**自ら学び始める人たちの特徴**」につながると思う。

余談だが、20年前の話になるが、私もこの「トヨタのなぜ5回」を参考にワークシートをつくって、生徒の定期テストの振り返りをしていた。

例えば、「なぜテストの点数が悪かったのか？」→「マンガばかり読んでいた」

「なぜマンガばかり読んでいたのか？」→「計画表を作っていなかった」

「なぜ計画表を作っていないのか？」→「面倒くさいから」

「なぜ面倒くさいと思うのか？」→「テスト勉強が楽しくないから」

「なぜ楽しくないのか？」→「ガミガミ言われることが多いから」

「なぜ言われるのか？」→「自分から積極的に取り組んでないから」

「ではどうする？」→「（次への取組目標）」